

# 徳くほ報

No.0039

発行

令和3年1月

発行元 徳泉寺

仙台市宮城野区

榴岡3-10-3

(022)297-4248

[tokusenji.sendai@gmail.com](http://tokusenji.sendai@gmail.com)

[ai@gmail.com](mailto:tokusenji_sendai@gmail.com)



ホームページ

[tokusenji-](http://tokusenji-sendai.com)

[sendai.com](http://tokusenji-sendai.com)



Instagram

[tokusenji.sendai](https://www.instagram.com/tokusenji.sendai)



TOKUSENJI.SENDAI

## 令和二年から令和三年へ

静かに静かに歳が暮れ、静かに静かに新しい年が始まりました。COVID-19の脅威に加え、大晦日から元旦にかけて降り積もった雪の影響もあり、修正会はひっそりと執り行われました。しかし、こんな時はなおさら、どの場所の阿弥陀さまも等しく尊い、ということを意識させられました。徳泉寺の阿弥陀さまも、各ご家庭の阿弥陀さまも、もちろん東本願寺の阿弥陀さまも何のかわりもない。そこに手を合わす人がいて、命いっぱい

生きることを願われているひとりひとりの私がいる、と想像することは、離れてはいるけれど繋がっている、そんな不思議な一体感を感じさせてくれました。

本年も一日一日大切に、ゆっくり歩いていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。



大晦日 夕時勤行



雪の元日



修正会勤行

### 住職法話より

本堂のお内陣ですが、報恩講やお彼岸、お盆など大きな法要や行事があるときは、普段より少し重めのお飾りをします。そのなかでも一番重厚にお飾りされる行事、それがこのお正月の「修正会」です。このことは「はじめの一步を大切に」ということを表しているように感じます。まず仏法の道に立つことを大切にされた親鸞聖人の教えのとおり、新年の一番初めのこのお勤めをご縁に感謝しながら大切にいただきましたと思います。浄土のことを英語で pure land ピュアランドと訳します。何も引かない、何も足さない、私たちの偏見や思いに左右されず、どんな命も共に一つのところで会う場所です。選ばず、見捨てず、嫌わずいられる場所。ともすれば偏見にまみれ差別してしまう私ですが、どんなふうにかいたのか、何を大切にしたいのか、そのことを見つめながら今年もいきたいと思います。

### 前任職法話より

先日テレビで城南高校のダンス部のドキュメンタリーを見ました。全国大会を目指して高校生が一丸となって練習する中、コーチをしていた佐々木美智さんが急逝されたのだそうです。その美智さんがこんな言葉を残されていました。

**自分で考え、自分で動き、一生懸命生きる**

これは、コロナ禍で不自由を感じ、テレビの情報を鵜呑みにしがちな私たちが忘れてしまっただけのことのように思います。誰のせいにもせず、自分の命を精いっぱい生きること。そしてその時に大切なのは自分だけ良ければいいのではなく、「俱(とも)に」ということです。周りの命と心を通わせ一生懸命生きるということ。大変な状況が続きますが、このことを忘れてはいけないと感じました。